

(様式1)

令和5年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(城北小) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

- ・サポーター登録者が増え、その活用も効果的で、CS活動は直実に充実・発展してきていると思う。更なる学校への関心や意識を高める工夫をしていきたい。
- ・次は〈協働〉について一歩進めたい。お互いの活動や方向を整理し、まずは共有化し、共同で取り組んでみる。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・年度初めに学校長より、城北小が目指す教育、特に「やさしさ」を重点とした理由など、熱い思いをわかりやすい説明があり、納得でき、共有することができた。
- ・各委員が互いに疑問や意見を出し合い、学校側も少しでも疑問があれば丁寧に説明してくださり、学校の方針を理解しながら、各委員の意見も尊重しつつ、皆で熟議できた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・城北小サポーターも4年目を迎え、順調に登録者も増えて学習支援や環境支援、生き方指導の支援等、活動が盛んになってきている。学校運営協議会の役割、その他地域で補佐する役割(夏休みの子供の居場所づくり)など熟議し、分担して活動できた。
- ・どの委員も、地域愛と子供たちのためにと、それぞれの立場での建設的な意見が多く、精度の高い熟議ができていると思う。運営協議会委員の輪・和・話・笑も広がり、常に動き出せる体制はできている。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・保護者や地域へ周知する内容は、コミュニティー・スクールだより、地域回覧、ポスター、さくら連絡網等で、常に新鮮・的確・効率よく発信している。協議会の記録は毎回発行され、共有化を図り、着実に積み上げている。
- ・今後、地域とのつながりが必要となる。そのためには、学校支援活動の現状を積極的に発信する等して、学校への意識を高め、学校の現状や教育活動への理解を深める新たな情報発信が必要である。「やさしさ」を中核に、つながりの輪を広げる方策を考えたい。

<評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- ・学校と地域との結び付けを強め、「協働」という価値観の中で、互いに協力し合える関係を築いていきたい。「やらまい會」の体制を見直して、地域団体との協働を実現できるような方策を生み出していく。
- ・サポーター拡大・充実のために、「やさしさ」の側面から、命の大切さや、心の豊かさ、生き方等、ソフト面の充実に向けて、眠っている地域人材を発掘し、様々な人の生きざまに触れるような活用方法を工夫し、学校と地域とつなげていきたい。
- ・子供の命や安全を守るために、地域から「放課後の居場所づくり」「朝の声掛け運動」「交通見守り隊」等、側面からの支援の声があがっているので、協働してやっていけるよう熟議し、実現していきたい。